

熱中症予防のポイントを 分かりやすく解説

6月16日、「みらい」文化ホールで行田市熱中症予防対策推進大会「夏のけんこう気象セミナー」が開催されました。

官民一体となった熱中症予防対策を強化するために行われたこの大会に、地域の保健協力員や民生委員・児童委員など544人が参加。「熱中症おたすけ隊」委嘱式や熱中症予防対策宣言の唱和などが実施された第1部に続き、第2部では気象予報士の依田司さんが熱中症と気象の関係性を解説しました。また、サーモグラフィーを使った実験で熱中症になるメカニズムも紹介。依田さんは「のどが渇く前にスポーツドリンクを飲み、直射日光を避けて生活してほしい」と熱中症を予防するポイントを分かりやすく伝えていました。



「子ども大学ぎょうだ」の 6期生として47人が入学

7月11日、ものづくり大学で「子ども大学ぎょうだ」の入学式が行われました。

今年度は、47人が6期生として入学。子供たちは、学生の象徴となる角帽を順次作り始め、その後ものづくり大学の教授による「橋の仕組み」や「車が動くまで」の講義を受けました。内容は、普通の授業では経験できないものばかり。学ぶことへの意識を高めることができた子供たちは、今後の学習プログラムを心待ちにしているようでした。



力を合わせて勝利をつかめ!

6月27日、行田グリーンアリーナで市内小学生の綱引き大会が開催されました。

低学年・中学年・高学年の部に分かれ、計48チーム496人が、それぞれの部の優勝を目指して競いました。試合開始の合図とともに、「オーエス」の掛け声に合わせて、力いっぱい綱を引く子供たち。両者とも譲らない白熱した試合に、観客からは熱い声援が送られていました。



農業体験に 子供たちは大はしゃぎ

6月21日、谷郷地区内にある「はせがわ農園」の田んぼで古代米稲作体験が行われました。

このイベントは、さきたま古墳・行田古代米カレーの会(田中利幸代表)が主催したもの。4回にわたり、古代米の田植えから稲の収穫といった農業体験の他、収穫した古代米でカレーの作り方を学ぶなど盛りだくさんの内容となっています。この日は田植え体験が行われ、参加した親子は田んぼ独特のぬかるみに足を取られながらも楽しそうに苗を植えていました。子供たちは「機械のように上手にできなかったけれど、おもしろかった」と笑顔を見せていました。



撮影協力：  成田空港



成田空港 蓮の和風庭園完成 行田蓮も観光客をお出迎え

6月22日、成田空港第1旅客ターミナル前で「蓮の和風庭園オープニングセレモニー」が行われ、工藤市長や関係者らがテープカットを行いました。

この庭園は、平和の象徴でもある蓮の花で日本を訪れる人をお迎えしようと、新たに池や水車を整備し、蓮を展示するもの。大賀ハスを中心に、行田蓮など数種類の蓮が順次展示されることになっています。本市から贈られた行田蓮の花も、たくさん観光客の目を楽しませてくれることでしょう。



蓮の魅力を満喫

7月12日に古代蓮の里で第18回行田蓮まつりが開催されました。

毎年恒例の蓮餅や蓮粥、蓮茶の振る舞いを楽しみに早朝から多くの方が並び、蓮を味覚で堪能。また、会場ではフラダンスやオカリナ演奏などが披露された他、福島県白河市や群馬県上野村の特産品や土産物の店が並び、にぎわいを見せていました。蓮も見ごろを迎え、来場者は蓮の魅力を存分に味わうことができたようです。



日ごろの運動の大切さを実感

6月24日・26日・30日の3日間を通して、65歳以上の方を対象にした「公園で若返り! パワーアップ教室」が行われました。

この教室は、水城公園内の健康器具を使った運動や園内でのウォーキングなどで、自身の体力の維持・向上を図ることが目的。30人の受講者は、講師のアドバイスを受けながら意欲的に体を動かし、日ごろから運動することの大切さを改めて認識している様子でした。

